

# DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第20号 (2007/11)

〔はじめに〕

8月のヒロシマ・ナガサキデーから11月の「国際共同行動デー」参加と、今年後半もいろいろ取り組みがありました。劣化ウラン兵器についても国連決議が成されるなど、広がりを見せつつも、まだウラン兵器廃絶には先が長いのです。この間の報告を中心にお届けします。

## 原水爆禁止世界大会：報告 劣化ウラン研究会 野村修身

被曝62周年原水爆禁止世界大会が行われました。私は関連企画として行われた、劣化ウラン廃絶に関連した行動に参加する目的を中心に、2007年8月3日～6日まで広島に滞在しましたので、印象に残ったことを記します。

### 【8月3日】

8月3日は当該の世界大会は大阪にて行われており、広島では大会の受付のみでありましたので、関連企画の「原爆と戦争展」を拝見しました。

「原爆と戦争展」は、広島への原爆投下を中心として展示ではありましたが、原爆投下の背景から説き起こした、中味の濃いものでした。「第二次世界大戦の真実」として、「みんなが貧乏になっていった」「王道楽土といわれて満州に行った」「憲兵や特高ににらまれ、マスコミにたたかれものが言えなくなった」「暴支庸徴といって中国全土へ侵略を始めた」など、現状に通じる展示が多くあります。

この展示には、その他に「原爆と峠三吉の詩」「沖縄戦の真実」「全国空襲の記録」「被曝市民の声」などをテーマとして、数多くの展示があり、じっくり見ていったら、とても1日では見切れません。これだけの多くの資料を集められた主催者には敬服します。

会場には被爆体験者が常駐されて、生々しい被爆実態を、特に若い人に向けて話されていました。私に話して下さった方は13才で

被爆したのですが、被曝直後、数週間にわたり気を失っていたとのこと。そのために、黒い雨にあたることはなく、被爆地を歩き回ることが無かったためでしょうか、後遺症はほとんど出ていないそうです。何が幸いになるか分かりませんね。

展示されていたA2判のパネルは、貸し出しをしており、連絡先を下記しますので、必要の方は連絡下さい。

下関原爆展事務局：

下関市田中町10-2

TEL:0832-22-9377, FAX:9399

広島の被爆者から体験を聞いたり交流されたい方は、下記に連絡下さい。

原爆展を成功させる会：

広島市中区若草町5-9

TEL/FAX:082-263-0611

### 【8月4日】

8月4日は、開会式の会場内で様々な人のメッセージを聞きましたが、通り一遍の決意や挨拶がほとんどであり、被曝の風化を感じさせられました。これで良いのかと心配になりました。しかし、広島県被団協理事長・坪井直さんは、ご自分の被爆体験からほとぼしり出る行動を話されて、ひときわの光を放っていました。

その話を要約すれば、被曝直後から1ヶ月近くの記憶は全くないのですが、後から聞いたことに依ると、被爆者がひとまとめでころがされていたところに、母親が訪れて大声で名前を呼んだときに片手をあげたので、本人

と確認されたとのこと。母親の子を思う心が、無意識の本人に通じたのであろうとのこと。もし、母親がそこに訪れなかったら、御本人は今ここに居なかったと述懐されました。その思いが、基礎となって、原水爆廃絶の運動に一生をささげることになったと言われました。人間の運命の機微と偉大さに心が打たれました。

坪井直さんは、被爆直後に最も早く撮られた写真（松重美人氏撮影で、広島平和記念資料館に展示されています）にも写されています。この写真からも、坪井直さんの決意が読み取られるようにも思われます。

### 【8月5日】

8月5日は、関連企画「劣化ウラン問題を考える」に参加しました。これは、ウラン兵器禁止を求める国際連合（ICBUW）／NODU広島プロジェクトが呼びかけて開かれたものです。開催を主催された関係各位のご尽力に感謝します。

まず最初に、フォトジャーナリスト・豊田直巳さんの取材旅行で得られた体験を話されました。その導入の話として、少し前に騒ぎとなった「納豆ダイエット」から始められ、マスコミがいかにかゆがめられており、必要な情報は伝えられず、どうしても良いことのみが示されていることを話されました。このような状況の中で、必要な情報を得る方法を注意して探ることが大切というわけです。「まず疑ってかかれ」が基本となりましょうか。

例えば、東京電力は、「でんこちゃん」なるキャラクターを使って「節電しましょう」とさかんに吹聴していますが、自社の利益を追求しなければならないのに、自分の首をしめるような節電を掲げるのはどうしてでしょうか？

続いて、振津かつみさんが「劣化ウランの危険性と対日本政府の取り組み」、嘉指信雄さんが「ウラン兵器禁止を求める国際連合の国際的取り組み」について、報告されました。劣化ウランが出来るのは、原子力発電を稼働させるからであり、本来ならば、放射能物質として厳重に管理しなければならないはずな

のに、被害が不明であるとして、イラクやコソボで大量にばらまいているのです。特に、このように被爆地に対するアメリカの無責任体質が最も問題です。

さらに、午後の会合では、空中核実験によるアルジェリアや南洋環礁住民の被曝が今でも続いていること、原発労働者やJCO施設事故による周辺住民の被曝訴訟、さらに被曝2世の補償問題など、核および関連施設による被曝の影響は、子々孫々にわたり長く続くことであり、改めてその深刻さを浮き彫りにし、人類の生存とは相容れないのが核関連であって、様々な運動の連帯が必要であることが示されました。

### 【8月6日】

8月6日は、原爆の炸裂時間にあわせて、原爆ドーム前で「ダイイン」を行いました。炸裂した日は一点の雲も無い快晴日だったのですが、ダイインを行った時は曇り空であり、被爆者の苦しみを疑似体験するにはふさわしくない環境でしたが、62年前に思いをはせて、しばらく横になっていました。その脇では、日本山妙法寺の関係者がたいこを叩いてお経を上げていたり、犠牲者を悼む歌が流れたりして、雰囲気は満点でした。

ダイインの後は「ピースパレード」で市中を行進しました。竹馬に乗ったグループ「背高女」が先導して下さったので、大変に目立って、アピール効果は抜群でした。パレードの終点・中国電力本社前で集会を行ったのは、美しい瀬戸内海の上関における原子力発電所建設計画をやめさせる目的です。

ウラン関連問題の原点は、原子力発電所にあると言っても差し支えないでしょう。例えば、イラクの人々を苦しめている劣化ウラン兵器は、原子力発電用燃料の残りカスです。原発を稼働しないことが、イラクの人々を救うことにつながるとしても間違いではありません。

核関連の問題は、現在でも世界的な問題なのです。

# 2007年11月1日 「劣化ウラン兵器使用の影響に関する決議」 国連第一委員会において賛成多数で採択！ 日本も賛成！

ニューヨークの国連本部で開催中の第62回国連総会第一委員会（軍縮・安全保障問題担当）において、11月1日午後（現地時間）、「劣化ウラン（DU）兵器使用の影響に関する決議」が、122票の賛成（投票数の約3分の2）で可決されました。日本政府も賛成票を投じました。

反対したのは、米国、英国、フランス、オランダ、イスラエル、チェコの6カ国のみで、35カ国が棄権。DU兵器所有国を含むEU加盟国の対応が注目されましたが、ヨーロッパの国としてはドイツ、イタリア、オーストリア、スイス、アイルランド、リヒテンシュタインなどが賛成票を投じました。ロシアは棄権し、中国は投票せずに会場を後にしましたが、そのことを前もって提案国サイドに伝えて来ていたとのことです。

今回の決議は、(1) 国連事務総長名において、国連加盟国と関連国連機関に対し、DU兵器の影響に関する意見の提出を求め、来年の国連総会でその報告を提出すること、そして、(2) 来年の国連総会の正式な議題にDU兵器問題を含めることを要請するものです。また、前文では、国連憲章と国際人道法に基づき、「DU兵器使用が人体や環境に及ぼす潜在的に有害な影響を考慮する」ことが明記されています。（決議案全文仮訳を下掲。）

【中略】11月17日に、「非同盟運動諸国」（提案国：インドネシア）の名において、第一委員会に決議原案が提出されました。インドネシアをはじめ、「非同盟運動」の国々は、今年3月以来、ICBUWがジュネーブやニューヨークで取り組んできたロビー活動においても、最も積極的な関心を示してくれていた国々です。原案では、使用のモラトリアム（一時停止）も含まれていたのですが、採択に向けた駆け引きの中で、最終的に今回は、「DU兵器決議」が確実に採択されることを優先し、上記二項目にしぼった決議案として投票にかける道が選択されたとのことです。

いずれにしても、DU兵器関連の決議が国連第一委員会でも可決されるのは、イラク戦争後初

めてのことであり、約一ヶ月後に行われると思われる「総会での投票」でも可決されれば、国連での取り組みが具体的に動き出すことを意味します。

2001年と02年、イラクによって「DU兵器は大量破壊兵器」とする決議案が提出されていますが、最初は、第一委員会では可決されたものの総会では否決され、翌年は第一委員会でも否決されています。また、1996年以降、三度にわたって、人権小委員会において、DU兵器を非人道的兵器として非難する決議が採択されていますが、これらは小委員会での採択です。

私たちは、以上のような意味において、今回の決議採択は、いままで曖昧なままにやり過ごされてきたDU問題を国際政治の舞台に正式に上げる画期的なステップであると受け止めています。今回の決議採択を最大限に活かし、国際キャンペーンを大きく前進できたらと思っております。

また、私たちICBUWは、日本国内においても、今年5月の対政府交渉以来、劣化ウラン問題に関して、日本政府独自の見解を明確にするよう求めてきましたが、今回、日本が賛成票を投じたことはとても大きな積極的意義があると思っています。

投票後、今回の決議案を作成したキューバの担当官から電話で聞いたところによりますと、日本は、投票の後に発言を求め、「DU問題に関しては、国連関連機関による報告が出されているが、いずれも確定的・最終的なものではなく、日本政府としては、関連機関による今後の調査・研究を注意深く見守っていきたい」と述べたとのことです。これは、ある意味では、従来の見解を表明したにすぎないとも言えますが、賛成票を投じた上での発言であり、積極的に評価されうると思います。

なお、第一委員会での議論・投票の様子を伝えてくれた「ピース・ボート」ニューヨーク事務所の伊知地亮さんやキューバの担当外交官の話によりますと、投票前に、アメリカは、「この問題については、関連国際機関によってすでに報告が

なされており、以前、提案された決議案も否決されている」といった趣旨の反対スピーチをしましたが、賛成票を投じたアルゼンチンは、「国連として新たな調査機関を設置する必要性」を訴えるスピーチをしたとのこと。

私たちとしては、日本政府が、DU兵器の速やかな全面禁止に向け、さらに前向きな姿勢を取り、国際社会の中で先導的役割を果たしてくれるように強くプッシュして行きたいと思えます。

11月の「国際共同行動デー」の取組みの中でも、今回の「決議採択」のことを多くの人々に知ってもらい、運動をさらに広く拡げてゆきたいと思えます。

今後とも、一層のご支援を何卒宜しくお願いいたします。

ICBUW 運営委員：

嘉指信雄／NO DU ヒロシマ・プロジェクト代表  
振津かつみ／ヒバク反対キャンペーン・DU 担当  
森瀧春子／NO DU ヒロシマ・プロジェクト事務局長

## 国連第一委員会

「軍縮および安全保障関係」への決議案

### 日本語訳

2007年10月31日

原文：英語（嘉指信雄訳）

第62回セッション

第一委員会

議題項目：98

一般的・完全な軍縮

インドネシア：修正案【国連「非同盟運動諸国」のメンバーである国連加盟国を代表して。】

### 決議案タイトル

## 劣化ウランを含む武器・砲弾の使用による影響

国連総会は

前文第一項

国連憲章に明記された諸目的と諸原則および国際人道法に従い

前文第二項

武器規制と軍縮に関する交渉を前進させるの

に不可欠な手段としての多国間協調主義を促進すべく決意し

前文第三項

人類は、環境を保護するため直接的手段を取る必要をより強く認識しているが故に、そうした努力を脅かす事柄に対しては、いかなるものであっても、必要な措置を速やかに講じる必要があると確信し

前文第四項

劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が人体や環境に及ぼす、潜在的に有害な影響を考慮に入れつつ

主文第一項

事務総長に対し、劣化ウランを含む武器・砲弾の使用がもたらす影響に関する、加盟国および関連国際諸機関の見解を求めること、そして、第63回総会において本件に関する報告書を提出することを要請し

主文第二項

第63回国連総会の暫定的議題に、「劣化ウランを含む武器・砲弾の使用の影響」と題された項目を含めることを決議する。

## 「劣化ウランを含む兵器・砲弾の使用の影響に関する決議」の投票についての要約 (国連広報局による国連ウェブサイトへの発表)

### 【投票前】

キューバの代表は、「非同盟運動」による「劣化ウランを含む兵器・砲弾の使用の影響」に関する新たな決議 (document A/C.1/62/L.18/Rev.1) [以下、この訳においては、「劣化ウラン決議」と略] 案を支持しつつ、以下のように述べた。

この問題は、国際社会にとって正当な関心事であり、第一委員会によって無視されるべきではない。EU議会は、この問題に関する憂慮を表明してきているいくつかの機関のひとつであり、また、国連環境計画 (UNEP)、世界保健機関 (WHO) などいくつかのグループによる調査は、劣化ウランを含む武器・砲弾の長期的影響を確定する研究の必要性を示してきている。

さらにキューバ代表は、次のように述べた。

本決議案に賛成票を投じないであろうグループがあることを遺憾に思う。賛成票を投じないであろう国々の多くは、そうするのが良いことだと確信しているからで

はなく、いくつかの国との連帯意識のゆえに、賛成票を投じようとならないのであると述べた。しかしながら、本決議案の採択は、この重要な懸案の解決に向けた、一つの重要なステップとなる。

次に、「非同盟運動」を代表して、インドネシアの代表が、本「劣化ウラン決議」案を提案するにあたって述べた。

劣化ウランの微粒子が人体に及ぼす影響の全体については、いまだに明確な理解が得られていない、したがって、本決議案は、劣化ウランを含む武器・砲弾の使用が及ぼしうる影響に関して国際社会が抱く正当なる憂慮を反映するものである。

アルゼンチンの代表は、本「劣化ウラン決議」に関する投票をするにあたり、その意図を説明し、次のように述べた。

アルゼンチンは、本決議案の共同提案国の一つである。いかなる武器システムに関しても、その制限は、いかなるものであっても、確かな科学的情報に基づいたものでなければならないと、アルゼンチンは感じている。したがって、[本決議案の主文第一項が]、事務総長に対し、加盟各国から情報を求め、総会に提出することを要請していることを重視する。そうした報告が提出された後、本件を包括的に検討するため、各国政府の専門家からなるグループが組織されるべきである。

合衆国の代表は次のように述べた。

自分は、本決議案には反対票を投じる。本決議案は、劣化ウランの環境や人体への有害な影響に基づき、事務総長に行動を起こすよう求めている。本案は、この問題に関する科学的情報を無視している。この問題はすでに、合衆国国防総省、NATO および国連環境計画（UNEP）によって研究されてきているが、こうした機関による研究は、いずれも、これらの砲弾による環境や人体への影響を確認していない。また、同様の決議案が過去に提出されてきているが、否決されている。合衆国は、本総会も、この決議案を否決するよう希望する。

### 【投票後】

日本の代表は、本決議案について次のように述べた。

劣化ウランによる環境や人体への影響について研究がなされてきているが、国際的に確定した結論には至っていない、と日本は認識している。日本は、そうした結論を得ようとする努力を注目し続けたい。

### 投票結果【国連表記国名のアルファベット順です】

賛成：122

アフガニスタン、アルジェリア、アンゴラ、アンティグア・バーブータ、アルゼンチン、アルメニア、オーストリア、アゼルバイジャン、バハマ、バーレーン、バングラデシュ、バルバドス、ベラルーシ、ベリーズ、ベニン、ブータン、ボリビア、ボツワナ、ブラジル、ブルネイ・ダルサラーム、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、チリ、コロンビア、コモロ諸島、コンゴ、コスタリカ、コートジボアール、キューバ、キプロス、朝鮮民主主義人民共和国、ジブチ、ドミニカ共和国、エクアドル、エジプト、エルサルバドル、エリトリア、エチオピア、ガボン、ドイツ、ガーナ、グアテマラ、ギニア、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、インド、インドネシア、イラン、イラク、アイルランド、イタリア、ジャマイカ、日本、ヨルダン、ケニア、クウェート、ラオス人民民主共和国、レバノン、レソト、リベリア、リビア、リヒテンシュタイン、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、モルディブ諸島、マリ、マーシャル諸島、モーリタニア、モーリシャス、メキシコ、モンゴル、モンテネグロ、モロッコ、モザンビーク、ミャンマー、ナミビア、ナウル、ネパール、ニュージーランド、ニカラグア、ニジェール、ナイジェリア、オマーン、パキスタン、パナマ、パプアニューギニア、パラグアイ、ペルー、フィリピン、カタール、セントルシア、サモア、サンマリノ、サウジアラビア、セネガル、シエラレオネ、シンガポール、ソロモン諸島、南アフリカ、スリランカ、スーダン、スリナム、スワジランド、スイス、シリア、タイ、東ティモール、トーゴ、チュニジア、トルクメニスタン、アラブ首長国連邦、タンザニア連合共和国、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベネズエラ、ベトナム、イエメン、ザンビア、ジンバブエ

反対：6

チェコ共和国、フランス、イスラエル、オランダ、英国、米国

棄権：35

アルバニア、アンドラ、オーストラリア、ベルギー、ブルガリア、カンボジア、カナダ、クロアチア、デンマーク、エストニア、フィンランド、ジョージア、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、カザフスタン、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、モルドバ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、大韓民国、ルーマニア、ロシア連邦、セルビア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、マケドニア、トルコ、ウクライナ

欠席：29

ボスニア・ヘルツェゴビナ、カボベルデ、中央アフリカ共和国、チャド、中国、コンゴ民主共和国、ドミニカ、赤道ギニア、フィジー、ガンビア、グレナダ、ギニアビサウ、キリバス、キルギスタン、ミクロネシア連合、モナコ、パラオ、ルワンダ、セントクリストファー・ネヴィス、セントヴィンセント・グレナディーン、サントメ・プリンシペ、セーシェル、ソマリア、タジキスタン、トンガ、トリニダードトバゴ、ツバル、ウガンダ、バヌアツ

---

---

# ニュースクリップ

---

---

出典 <http://www.tcdailyplanet.net/node/7291>

10月2日ミネソタ州エディナにあるアライアント・テクシステムズ社（ATK社）の前で約100名が集まり「武器を鋤に」と訴える行動が取り囲まれました。その際に14名が逮捕されています。

行動を起こしたのは地元の AlliantACTION（アライアントアクション）で、以下の文章は、その様子を伝える独立系ニュースの記事です。

なお、このグループは8月6日のヒロシマ・デーに呼応して8月7日にも同様の行動を行い、そのときは8名が逮捕されています。

ATK社はミサイルのエンジンも作っており、トライデントミサイルや弾道弾迎撃ミサイルの製造メーカーでもあります。

日本の反核運動と呼応して行動し、非暴力行動で逮捕者も出しているこの運動が、もっと広く日本にも伝えられなければなりません。

## 14名が地元の武器商人の本部前で逮捕される

スティーブ・クレメンズ

10月2日はモHANDAS・ガンジー（日本では慣習的にマハトマ・ガンジーと呼ぶ）、インドで英国の植民地支配を終わらせた非暴力運動のリーダー生誕にちなみ「非暴力主義の国際デー」として国際連合によって宣言された日。アライアントアクション（AlliantACTION）は尊敬するガンジーの誕生日にエディナのATK社で行動を計画した。

今年のテーマは「仕事を失うことのない平和への転換」だった。

アライアントアクションはこれまで10年以上にわたり毎週水曜日の朝にATK本社の前で週に1度の徹夜行動を行ってきた。これまで20～50人で取り組んできたが、今回はガンジー・デーということで、抗議の輪をもっと広げようと参加人数の拡

大に努めてきた。

行動は、近くの公園で歌を歌い、「非暴力主義への誓い」を暗唱して始まった。そして「我々がATK社に焦点を合わせる理由」についての短い説明が集まった人々に伝えられ、「戦争および死から利益を得ること」そして「ATK社は60以上の国で—ほとんど全世界に向けて—その武器を売る」という理由で、それに反対することに加え、ATK社によって設計、生産、販売された「非合法の、そして無差別の兵器」が具体的に指摘された。一連のリストにあるのはクラスター爆弾、対人地雷そして兵器に含まれる劣化ウランである。

約100人がATK社の本部前の道に向かい、リンカーン通りを行進した。ガンジーの言葉を引用し、歌を歌い、周りの人々に、何が平和の助けになる生産物なのかを思い起こしてもらおうと。武器生産の利益を目指すより「剣を鋤に」「平和への転換」に耳を傾けるために再び取り囲んだ。メンバーが「ガンジーの誕生日を祝う」と言った後に、人形、本、毛布、動物のぬいぐるみ、おもちゃを籠に入れながら、めいめいが、爆弾や銃弾の生産を止めて、そしてその代わりにおもちゃ、本、風力発電機、その他の人生を確認できるような生産物を作らせたいといった願望について話をした。

これらと共に、ATK社員に宛てた手紙を携帯し、メンバーは敷地内に入ろうとした。手紙には「国際法の下での兵器製造業者の従業員の責任」として「仕事を失わず平和目的に生産物を転換すること」に同意する権利を与える、と記載していた。

警備員と警官は道路を横切って阻止しようとした。「犯罪的侵入」とされ、些細な軽犯罪容疑でグループのうち14名が逮捕され、風船と国際法文書の差し入れは拒否された。

解散する前に、グループにより最後に歌われた。歌詞はこのように始まる。

アライアントテク社にお願いだ

もう終わりにしよう

会社の製品が原因の

死と苦痛は。

そして増やそう

平和の製品を

人々のための  
この世界の健全さを保つための

スティーブ・クレメンスはミネアポリスに住んで、そして聖マーティン・コミュニティのメンバーである。また、カトリック平和グループとアライアントアクションのメンバーでもある。

【抄訳 劣化ウラン研究会 山崎久隆】

---

---

2007ウラン兵器禁止  
国際共同行動

11月6日は2001年に国連で「戦争と武力紛争による環境収奪を防止する国際デー」として決議された日です。

2004年以来、ICBUW（ウラン兵器禁止を求める国際連合）が呼びかけ、11月6日を「ウラン兵器禁止国際共同行動デー」として位置づけ、世界各地でいろいろな行動が取り組まれてきています。今年も各地で取り組みが企画されておりますので、すでに終わっていますが、日本国内の取組の一部を紹介いたします。

★【11/6広島】ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デー  
写真パネル展：「劣化ウラン兵器被害と国際禁止キャンペーンの現状」

主催：NODU(劣化ウラン兵器禁止)ヒロシマ・プロジェクト  
期間：2007年11月1日(木)～7日(水)

共催：ICBUW(ウラン兵器禁止を求める国際連合)

★【11/11東京】劣化ウラン兵器禁止を求める国際デー  
集会：テロ特措法延長・新法反対！劣化ウラン兵器禁止！  
イラクの子供たちに医療支援を！

11月11日(日)18:00～21:00

講師：志葉 玲さん、佐藤真紀さん、山崎久隆さん、  
イラク現地の映像上映

劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク主催

★【11/11神戸】「ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デー」

11月11日(日)午後1時から

場所 1時～2時(予定) JR元町駅東口南広場で街頭ア  
ピールと署名活動

～5時(予定) 屋内集会 こうべまちづくり会館(元  
町から徒歩移動)

連絡先 NODU神戸プロジェクト nodu1111@gmail.com

★【11/3東京】劣化ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デー  
参加

11月3日(土) 13:00～16:00

・講演：森瀧春子

「イラク、アフガン…今も続く核の惨禍～ヒロシマを受け継ぐ  
ということ～」

・写真パネル展(11月3日)

「イラクのこどもたち～劣化ウラン被害者～」(NO DUヒロシ  
マ・プロジェクト制作)

中央大学多摩キャンパス3号館

中央大学白門祭実行委員会・歴史学会主催

★【11/4東京】劣化ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デー  
参加

11月4日(日) 14:00～17:00

・講演：森瀧春子

「劣化ウラン弾で放射能に汚染されるイラク～日本が支えるア  
メリカの実態～」

10月24日～11月6日

・写真パネル展

「イラクのこどもたち～劣化ウラン被害者～」(NO DUヒロシ  
マ・プロジェクト制作)

学習院大学目白キャンパス 西2号館303教室

学習院大学大学祭実行委員会・学生自治会主催

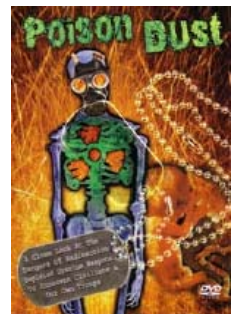
---

---

## ポイズン・ダスト

むしばまれる(イラクの)人々。汚染される大地。

イラク戦争と劣化ウラン。イ  
ラクで何が起こったか。イラ  
ク戦争を中心とした劣化ウ  
ラン被害告発ビデオ/DV  
D「ポイズン・ダスト」(オ  
リジナルの著作・製作は米  
国のNGOインターナショナル  
・アクション・センター)の日  
本語販売中



送金先：郵便振替口座 0010-2-  
155130

送金口座名称：劣化ウラン研究会

<通信欄記載事項>

・「ポイズン・ダスト注文」と明記ください。

・ビデオ(3500円) 本数

・DVD(3500円) 本数

・送付先住所

・連絡用電話/FAX/電子メールアドレス

# 本の紹介

## 世界は変えられる

J C J 日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

T U P が伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

T U P : Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

## 世界は変えられる II

一戦争の被害者って? 加害者って? -

T U P : Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

## イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A 5・160 ページ (写真 96 ページ / 文章 64 ページ)

2005 年 8 月 6 日発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何をもたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキなどによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

## 「放射能兵器・劣化ウラン —核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間 発行

2003年3月 定価2500円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-16

TEL:03-3260-9321

FAX:03-3260-9320

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器である。この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、地球上の生きとし生けるものに未来はない!

<主要目次>

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器  
廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

伊藤政子 アラブの子どもとなかよくする  
会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

取り扱いहतんぼぼ舎まで

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

## 劣化ウラン研究会

〒161-0061 東京都千代田区三崎町2-6-2

ダイナミックビル5F たんぼぼ舎内

TEL: 03-3238-9035 (たんぼぼ舎)

E-mail: [zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp](mailto:zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp) (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、

年会費(個人2000円・団体4000円)を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会